



我慢の90分 値千金の小牟田弾

駒澤大学 1-0 東海大学

待望の得点を挙げた小牟田に駆け寄る選手ら
(撮影：河田奈津子)

6月2日 14:50 時之栖スポーツセンター	
駒大 1 (0-0) 0 東海大 (1-0)	
得点者 (アシスト)	
【駒】75分小牟田	
KOMAZAWA	TOUKAI
GK①大石健太(3)	GK①山崎友斗(4)
DF②荒井裕介(4)	DF②水橋法彦(2)
DF④三澤祥馬(4)	DF⑤佐伯尚平(4)
DF③川岸祐輔(2)	DF②元田諒介(4)
DF③田中雄一(3)	DF②伊藤優作(3)
MF⑥若山瞭太(3)	MF④塩田光(3)
MF⑧碓井鉄平(3)	MF⑦松本敬幸(4)
MF⑩小牧成亘(2)	MF③森田努(1)
(83分⑩大木暁(2))	MF⑦寺尾優祐(1)
MF⑨山本大貴(3)	FW⑨大村亮平(3)
MF⑩湯澤洋介(4)	(77分⑩鈴木航平(3))
(91分⑩溝口祐真(2))	FW②廣瀬勇人(3)
FW⑤宮城雅史(4)	(77分⑩吉田祥太(3))
(63分⑩小牟田洋佑(2))	S U B
S U B	GK⑩内山圭(1)
GK②積田景介(1)	DF⑩水野栄介(3)
DF⑩平尾優頼(2)	DF④太田代飛鳥(2)
MF④中村駿(1)	MF⑥野口大輔(2)
MF⑦平野篤志(1)	MF③永吉惇起(1)
MANAGER	MANAGER
秋田浩一	今川正浩
[シュート]7:7 [GK]10:9 [CK] 10:4 [直接FK]18:18	
[間接FK]1:2 [主審]竹中 健太 [観衆]約81人	
警告(C)/退場(S)	
[東]77分佐伯尚平(C)	[東]91分吉田祥太(C)

劣勢跳ねのけ 1 回戦突破

本選出場へ負けが許されない大事な初戦。序盤、駒大はいつも通り前線から激しくプレスを掛けることでペースを握ろうとする。相手はサイドに起点を作ろうとパスを回すが、駒大の素早いチェックが出来ない。これで2週間前の対戦と似たような展開になるかと思われたが、この日は違った。

相手の両サイドバックの裏を何度も突き、湯澤、小牧がドリブルで仕掛けるも前回の対戦の時より守備的な相手を崩せない。また、何度も得たセットプレーも活かすことができず、閉塞感が漂ったまま前半は終了。東海大としてはプラン通りの前半だった。

後半、いきなり仕掛けて来たのは東海大。開始の笛と同時に前へ前へと圧力を掛けてきた。これに圧倒されてしまった駒大はここからさらに劣勢を強いられる。59分、コーナーキックの流れから3本連続でシュートを打たれると、直後の61分、左サイドからクロスを

上げられ、そのこぼれから寺尾がゴール前でシュート。入るかと思われたが、これは大石のビッグセーブで難を逃れる。

一向に攻めの糸口を見出せない駒大。要因は「宮城のところで競り勝てなかった」(若山)ことであった。それでも徹底してロングボールを送るが、今日の宮城は如何せん競り勝てない。しびれを切らした秋田監督は63分、その宮城に代え、小牟田を投入。すると、流れは徐々に駒大へと傾く。

歓喜が訪れたのは75分。碓井からの強烈なパスを見事なトラップで相手の逆をとった小牟田がゴール右隅へ丁寧な巻いたシュート。このスーパーシュートが決まり、駒大ベンチが湧き上がる。本人も「練習通り」と納得の表情だった。

その後はFW2人を代え、勝負に出てくる相手に対し、なりふり構わない守備で試合をしっかりとシャットダウン。見事、2回戦進出を決めた。

相手の策にハマってしまい、苦しんだものの、少ないチャンスを活かして勝利したことはチームの強さを感じさせた。次なる相手は東京国際大と情報が少ないが、慶應に勝った力は侮れない。ただ、どんな展開になろうと、この日のような我慢強い試合ができれば、おのずと結果はついてくるだろう。“大阪行き”の切符を手に入れるまで後1つである。(猪熊脩登)

スタンドからの応援コメント

今の勢いで総理大臣杯予選を突破してください。みなさんの笑顔がまた続いて見られると信じています。駒大応援隊2号